

震災を伝える姿に感動して







## CORPORATE PROFILE

### NHK 高松放送局

住所／香川県高松市錦町1-12-7  
tel.087-825-0151 (代表)

NHKの地方放送局で、香川県を放送対象地域としている。テレビとラジオ両方の放送を行う。

# 上代 真希

## PROFILE

かみだい まき  
NHK高松放送局  
キャスター  
香川大学経済学部卒業  
2006年NHK高松放送局  
入社

**N** HK高松放送局の「ゆうどき香川ニュース610」でおなじみのキャスター・上代真希さん。香川のニュースや気になる生活情報をいきいきと伝えてくれる彼女も、香川大学の卒業生です。

上代さんがアナウンサーを目指すようになったきっかけは、小学生の時に起こった阪神淡路大震災。関西の親戚の安否を気遣いながら見ていたテレビで、混乱した現場やスタジオからアナウンサーの女性が状況を伝え続けていました。その姿に衝撃を受け、はじめて「こういう仕事があるんだ。私もこんな仕事をしたい!」と思うようになったのです。それから、いろいろな仕事に関心が出ては消えていきましたが「アナウンサーという仕事ははずっと心の中に残り続けていた」そうです。

そんな上代さん、てっきり大学時代から放送部で活躍していたのかと思

きや、大学生の時に所属していたのはシーズンスポーツサークルだったとか。「男女と一緒に参加できる、ハレーを中心、どのスポーツも本気で取り組むサークルでした。それが合っていたんです。私、手加減されるのが嫌いで、男子相手でもできる限り食い下がります。アタックは無理でもレシーブ絶対とるぞ!みたいな。そんな私を(いい意味で)男子扱いしてくれました、このサークルは」。実は入学した時には放送部に入ろうかとも考えていたそうですが「なんでも挑戦する性格ですけど、じつと動かさず勉強する、みたいなのが苦手です。体を動かすのが好きなんです。それでスポーツサークルを選んでしまいました」。

負けず嫌いの性格で、たいていどんな場所でも活躍してきた上代さん。NHK高松放送局に就職後は、いきなり「ゆうどき香川ニュース610」に抜擢されました。ところが、なにもわからないまま

現場に出ることになったため「仕事ができない自分に苛立ち、本番30分前まで泣いていたこともあるんですよ」と、実は苦労も多かったそう。入社してすぐの抜擢は、「プレッシャーにもなっていたのです。また、言葉の問題もありました。香川生まれ香川育ちで客観的に自分の言葉を意識する機会が少なかったため、思わぬ方言に悩まされました。「ピアノやりんごは、私が標準語と信じていたアクセントが方言だった思い出深い単語です。アクセントは本当に難しく、標準語のアクセントが2種類あるようなものもあります。先輩に教えてもらったり、アクセント辞典で調べたり、コツコツ憶えました。まだまだ完璧じゃないですけどね」。

現在は普段でもすつかり標準語の上代さん。入社4年目で余裕も出てきて、改めて仕事にやりがいを感じています。「この仕事は、同じ事柄を伝えるにして



卒業旅行は沖縄へ。学生時代からアクティブな姿勢は変わりません。

も伝える人によって違うものになるんです。私はよく「上代さんがレポートすると楽しそうに見える」と言われますが、「おもしろいに見える」と言われる人もいます。100%正しいやり方というものはなくて、人によって違っていいということを教えてもらって、さらに仕事がおもしろくなりました」。震災を伝える姿を見て憧れたアナウンサー。その夢を実現した今も「この先ずっと何かを伝える仕事を続けていきたい」と言い切る上代さんです。